

光景を現出せんとす。

九、食量は半減、肉食は嚴禁

二十九日氣温午前二十九度、午後四十三度、而して前半微雪を降らし、後半曇天と爲る。午前九時二十分發、午後四時三十分アクスタークに着す。行程約十里半。沿途谷漸く廣く、左右の山次第に低くなり來りて、黄土又は赤土と石灰岩より組織せられたり。

空腹を感ぜず

是日より食糧は之を半減し、且つ肉食を嚴禁すべく馬夫より注意せらる。惟ふに營養十分なるときは、却つて呼吸促進、且つ鼻出血(出血のこと、第十卷の記なり)の恐あるに因るならん。減食は獨り人類のみに止まらず、馬匹皆然りとせり。而して毫も空腹を感ぜず、更に食慾を催さざるもの、一に空氣の作用に因らずんばあらず。空氣の稀薄作用が直接斯の如き現象を來すに及んでは、其の動作上に於ても、亦何等の影響する所なくんばあらざるなり。即ち其の恐るべき影響は、所謂高山病を惹起するに在りて存す。

高山病

高山病の惹起は、歩行の如何に在り。歩行の如何は、爲し得る限り緩歩徐行する